

# 永遠の都に息づく 美のかたち

古き良きローマの面影を残す小粋な界隈を散歩しながら秋のローマを楽しむ。  
街の中に息づく美。人の営みとともにある生きた美のかたち—。  
永遠の都、ローマの時間軸を超えた美の世界を堪能する。

取材・文：朝岡久美子  
写真：杉能信介

古代ローマ人たちはローマを「Capitulum mundi（世界の首都）」と呼んだ。しかし、ローマの繁栄は広大な領土を誇った古代ローマ帝国時代のものでない。この都市は宗教・芸術、そして人間の精神性の発展において、いつの時代も世界の中心地として君臨してきた。

後にローマ・カトリックの総本山を抱くこととなったこの都市の歩んだ繁栄の歴史は、ルネサンス期、バロック期を経て、さらに近代へと及ぶ。キリスト教が得た富と権力はこの都市にあらゆる美の形を生みだす。それはローマを訪れ、街にあふれる豪華絢爛な美の軌跡を目にすれば一目瞭然だろう。

さて、小難しい話はこれくらいにして、今回はガイドブックにある史蹟を一通り見学してしまったという上級者のために、地元の人々が日常生活の中で楽しむローマらしいアートシーンを堪能できるスポットをご紹介します。かつて人々が集い、賑わいを見せた街の一角。これらの情景をたどり、自分だけの時間軸を遡ってみる。ローマの街を巡る魅力はそんなところにもあるものだ。



# 古き良きローマを訪ねて ～ボヘミアン回廊と巡礼者の道～

マルグッタ通りを望む。今なお高名なアーティストたちが暮らす芸術の香り漂う小道だ。

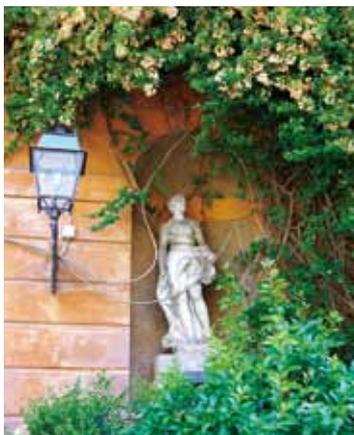
## 華麗なるボヘミアン回廊

ローマっ子たちに街のアートなシーンと尋ねたら、即座にVia Margutta（マルグッタ通り）と答えるに違いない。ポポロ広場からヴェネツィア広場まで真っ直ぐ延びるコルス通り。ローマを訪れたら誰もが一度は歩くに違いないこの目抜き通りの両脇には、ポポロ広場のオベリスクを中心点としてバブイーノ通り、リベッタ通りが三角形状に広がっている。中でも、かのスペイン広場へと通じるバブイーノ通りは、エレガントなカフェ、骨董品・美術商、そして老舗ブランドの旗艦店が立ち並んでいる。この界限を訪れたら、ぜひマルグッタ通りまで足を延ばしてみてほしい。

通りの中ほどにある、ホテルアート。ロビーはちょっとした現代アートのギャラリーのようだ。



美しいピンチョの丘の裾にあるこの小道は、16世紀後半から17世紀にかけて、ローマの光を求めてやってきたフランスやドイツなどの北方の画家たちがアトリエを構えたことから、たちまち芸術家たちの集う通りとして知られるようになった。しかし、当時は馬小屋や物置小屋などが立ち並び、芸術家の住まう場にしてはひどく殺風景だったという。19世紀、教皇ピオ9世に仕え、ローマの都市整備に一躍買ったベルギー人の大司教はその光景を惜しみ、自ら通りの土地を買い上げ、家々を美しく改装して草花を植え、世界中から才能ある芸術家を魅了するような美しい通りを創り上げたという。ここにローマが世界中の芸術家を迎えるにふさわしい美の回廊が誕生した。



その余韻は現代にまで及び、1950年〜70年代には映画監督フェデリコ・

# Via Margutta

フェリーニや女優ジュリエッタ・マシーナ夫妻をはじめとするイタリアを代表する映画人やデ・キリコ、ピカソなどの有名な芸術家たちが創作活動の拠点とした。道を歩くと、ピカソやフェリーニ夫妻の住んだアパートや、彼らがこよなく愛した小粋な食堂が今も静かにたたずむ。もちろん、現在も多くの著名な芸術家たちが暮らしている。



右／“芸術”を寓意した噴水。通りの歴史を語るシンボルだ。左上／“マルグッタ通りの100人の画家たち”開催期間中は世界中からアーティストが集う。左下／ピカソとその仲間たちが住んでいた53番地。



イタリア人の日常に欠かせないパール。そんな身近な場所でも志向の芸術作品に出合えるのはうらやましい限りだ。



# Via del Babuino

年に数回(4月・10月頃といわれているが不定期)マルゲッタ通りの1000人の画家たちと題されたアートフェアが開催されており、この通りにオマージュを捧げたいという画家たちが世界中から集う。市も全面的にバックアップしているこの催しには毎回ローマを代表する著名な文化人たちも足繁く訪れるという。今なおマルゲッタ通りがローマの人々の中に深く息づいていることを感じさせてくれる絶好の機会だ。この通りをこよなく愛する人々とふれあい、ローマの美を支える人々の心意気、生きた街の美の光景をぜひ味わってほしい。

もう一つ、この界隈でぜひ訪れてみたいのがバブイノ通りにあるカフェ、カノーヴァ・タドリーニだ。カノーヴァと言えば、ローマを代表する新古典主義の彫刻家だ(アントニオ・カノーヴァ1757-1822)。壮麗で端正な作品は美の極致ともいえる。大芸術家が創作に意欲を燃やした工房は一番弟子のタドリーニ家に引き継がれ、現代に至るまで大切に保存されてきた。その工房が2002年にカフェ兼美術館としてオープン。カノーヴァやタドリーニの主たる作品の原型ピースを含む一大コレクションが展示されており、カフェとしての名声もさることながら、アート好きに

バブイノ通りにあるカフェ、カノーヴァ・タドリーニの内部。二人の偉大な彫刻家が作品を生みだした工房が限りなくそのままの形でカフェに改装された。ローマの人々がこよなく愛するカフェの一つだ。



コ罗纳ーリ通りを歩く際は、ぜひ骨董品店や古美術商などにも立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



# Via dei Coronari

はたまらない本格的な美術館となっている。日常何気なく立ち寄る空間でこれほどの美を体感できるのはまさにローマの醍醐味だ。

## 風情ある巡礼者の道

さて、もう一ヶ所ご紹介したいのがコ罗纳ーリ通りだ。ナヴォーナ広場の近く、東西500メートルに延びる通りは、サンタンジェロ橋へと続くバチカンへ向かう道だ。古くから巡礼者の道として知られ、通り沿いにはロザリオなどの聖具を扱う店や古美術商などが並んでいたという。今もその名残から、骨董屋めぐりや古き良きローマの雰囲気を楽しむことができる通りとして地元の人々にも人気がある。

また、この通りを歩く楽しみはルネサンス期、バロック期の特徴的な建築様式を留めた建物や装飾を鑑賞できることにある。道の各所に見られる聖母マリアの図像や聖壇、そして、かつて通り沿いに暮らしていた聖職者や権勢者たちの邸宅の建築ディテールなどを通して、聖地ローマの歴史や街の様式美を身近に感じることができるに違いない。ナヴォーナ広場や、サンタンジェロ城を訪れた際にぜひ立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

かつて巡礼者の道として栄えたコ罗纳ーリ通り。聖地ローマのルネサンス・バロック期の宗教芸術の一端を垣間見ることができる。



# ～二人のローマ法王を刻んだ彫刻家 奥村信之氏～

日伊が国交を樹立して来年で150年を迎える。両国のかけはしとなった人々は数多く存在するが、彫刻家の奥村信之氏ほど我々日本人にとって誇らしい存在はいないだろう。氏が制作した二人の歴代ローマ法王の彫像は、今なお多くのカトリック信者たちの心に刻み込まれている。

## 二人の法王との運命的な出会い

ローマから車で約一時間。美しい湖で知られる街、ブラッチャーノの洞窟のようなアトリエで奥村信之氏は黙々と作品と対峙していた。二人のローマ法王の彫像を制作した彫刻家の素顔は、いたって自然体だ。

1970年代、ローマの国立美術学校で学ぶべく渡伊。巨匠エミリオ・グレ

## コヤミルトン・ヒーポルトなどの高名な

彫刻家の薫陶を受けた。以来、30余年ローマを拠点としている。抽象が大勢を占める現代彫刻において、あくまでもリアリスティックな具象にこだわり、イタリアン・ロストワックス・キャスト（古式精密蠟型鑄造）という伝統的な製法を貫く。

古代メソポタミアの時代まで遡ると、いう蠟型鑄造は、ギリシヤ・ローマ時代

## を経て、イタリアにおいてレオナルド・ダ

ヴィンチによって体系化されたという。各工程において熟練の専門技術者を必要とし、時間も経費も大幅に要するこの製法。あくまでもこだわるのは、半永久的な耐久性を持つブロンズで1000年、2000年経っても輝き続けるものを遺していきたいという一途な情熱からだ。

神様のごとき存在だったという師の



Profile 奥村信之 Nobuyuki Okumura

1953年東京生まれ。75年ローマ国立美術アカデミア彫刻科入学。90年、エミリオ・グレコに弟子入り。96年イタリア副大統領より芸術推奨メッセージを受ける。99年ローマ・マルタ騎士団長アンドリュウ・ベルティエの肖像を制作。2003年ローマ法王ヨハネ・パウロ2世の胸像制作。06年同ベネディクト16世の全身像を制作。ローマ近郊在住。

<http://www.okumura.it>

『歩む馬』



よって生みだされた作品は、かのベルニーニが制作したウルバーノ8世の胸像とともにバチカン最要部である図書館のバ

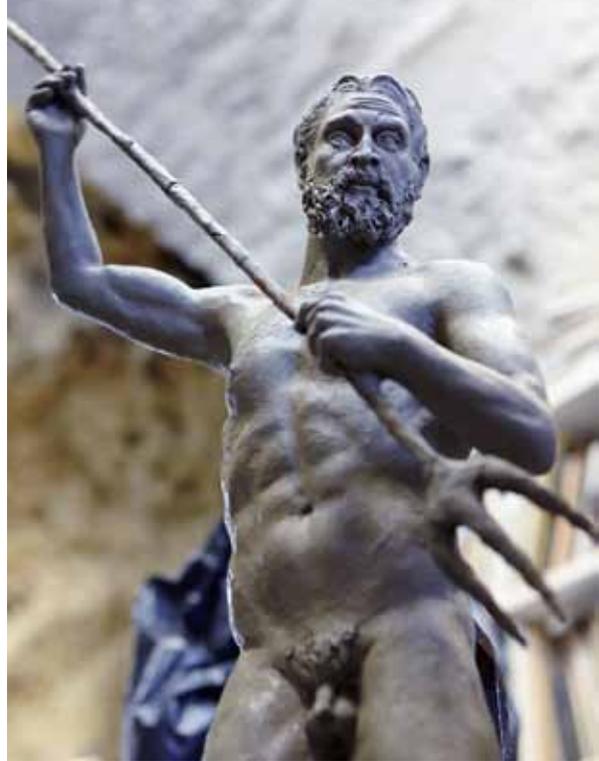


ヨハネ・パウロ2世の在位25周年を記念して制作された胸像。奥村氏はすぐさま粘土原型を制作してバチカンの枢機卿に見せたところ公式に採用されることになったという。



ヨハネ・パウロ2世との謁見。

現在制作中のネプチューン像。ギリシャ神話・オリンポスのすべての神々を制作中という。



象物の内に秘めた躍動感や溢れ出る生命を表現することに喜びを感じるからだという。

イタリア貴族たちの肖像を数多く手がけた奥村氏にとって、ヨハネ・パウロ2世、そして後にベネディクト16世という二人の法王との出会いは宿命的だった。

2003年、ローマ屈指の大貴族、ポルゲーゼ家のパーティーで紹介されたマルタ騎士団ローマ総長からヨハネ・パウロ2世の在位25周年を記念する胸像の制作を依頼され

エミリオ・グレコとは、お互い目指すべき方向は異なるものの、温もりのある血の通った作品を生み出す大切さを教えられたという。奥村氏が人物や動物などの命

ベネディクト16世の全身像の制作に際して作られた上半身の石膏原型。



ルベリーニの間に置かれていくという。そして、その3年後にはベネディクト16世の全身像を手がけることになる。

60代にさしかかった今、自らを育ててくれたローマの人々、そして美の根源が人間の中にあることを教えてくれたイタリアの人々に作品を通して恩返しをしていきたいという奥村氏。ローマを一言で語るなら、という問いに「Roma, non basta una vita—ローマは一回の人生では語りきれない」という本のタイトルを挙げて答えてくれた。きつと奥村氏もその尽きせぬ情熱とともに、永遠の都、ローマのスケールに匹敵するほどの壮大なヴィジョンを心の中に描いているに違いない。



2006年に制作されたベネディクト16世のブロンズ全身像はトヨタ自動車株式会社からの全面的なスポンサーにより実現。除幕式では法王立ち会いのもと豊田章一郎取締役名誉会長(当時)から献上された。除幕式で写真右から、豊田夫人、豊田章一郎氏、ベネディクト16世、奥村氏、在バチカン日本大使(当時)。

# チネチッタ ～夢の工房～

芸術都市ローマを語るにおいても一つ忘れてはならないものがある。それは映画だ。ローマはハリウッドと並ぶ映画制作の聖地。その屋台骨を支えてきたのが伝説の撮影所“チネチッタ”だ。



@Anna Galante

「夢の工房」の魅力とイタリア映画の歴史をインタラクティブに体感できるチネチッタの内部。音と映像の迫力に、まるで映画のワンシーンに入り込んでしまったかのようだ。

## Cinecittà shows off

ガイドツアーで夢の工房を探訪

ローマ市内中心部から南東へ10キロ程の場所に位置するチネチッタ。1950年代〜70年代の全盛期に制作された作品の多くは日本でも紹介されており、『ローマの休日』(1953)をはじめ、『ベン・ハー』(1959)、『クレオパトラ』(1963)、『フェデリコ・フェリーニの『甘い生活』(1960)、そして、巨匠ルキノ・ヴィスコンティやイタリアの生んだ大女優ソフィア・ローレン主演の数々の作品など、人間味と情熱あふれるダイナミックな映像に魅了された人々も多いに違いない。

1937年、チネチッタはファシスト政権のプロパガンダを目的として独裁者ムッソリーニによって設立。独裁政権時代の落とし子が、芸術都市ローマに新たな名声をもたらしたとは皮肉な話ではあるが、文化とは時にそういうものなのだろう。

1980年代後半以降、一時影を潜めていたが、近年、再びかつての栄光と存在感を取り戻しつつある。先日のヴェネツィア映画祭のオープニング作品にも選ばれた『エベレスト3D』をはじめ、多くの話題作がハリウッドと二分する形でチネチッタ内のセットで撮影されている。イタリア伝統の職人の技と叡智が生み出す本物の質感や立体感は、やはりあらゆるCG技術の追



@Anna Galante

往年の大スターたちの貴重な映像も存分に堪能できる。イタリア映画ファンにはたまらない空間だ。

従をも許さないのだ。  
 かつてはほとんど一般に公開されることのなかったチネチッタだが、嬉しいことに現在は自由に見学することができる。英語とイタリア語でのバックステージツアーが一日に数回あり、戸外の壮大なセットの見学も可能。スベ

シヤリストが作品のタイトルを列挙しながら各セットを案内してくれるので、実際にカメラが回された場所に立って一つひとつの完成シーンを想像してみるのも楽しい。  
 また1950年代から80年代にかけて制作された伝説的な映画作品の映像やメイキング風景などをインテラクティブに体験できる常設展示もあり、音と映像の渦の中でイタリア映画の変遷をエキサイティングに学び、感じることができる。フェリーニ作品の世界観そのものが演出されたコーナーなどもあり、チネチッタとイタリア映画界の底力を充分に感じさせてくれる。

残念ながらまだ日本語のツアーはないが、そのダイナミックさを五感で体感するだけでも充分価値ありだ。

古代ローマの街(左)やキリスト時代のエルサレム(右)のセット。予算をかせずとも華麗に見える。だまし技なども教えてくれる。



@Mariella Poli



@Philippe Antonello

Information

**Cinecittà shows off** (チネチッタ)

Via Tuscolana 1055, Roma  
 TEL 06 722931

営業時間 火曜日と12/22~25・1/1をのぞく9:30~19:00  
 バックステージツアーのチケット販売は17時30分まで

<http://cinecittasimostra.it/>



@Anna Galante

巨匠フェデリコ・フェリーニ監督に捧げられたコーナー。独自の世界観が見事に演出されている。



@Anna Galante